

## 初心者の盆栽村めぐり

宇敷 辰男

JR宇都宮線の土呂駅から東武アーバンパークライン（野田線）の大宮公園駅へ向って歩いて行くと、十分程で「大宮盆栽村」に到着する。

かつて東京の植木職人や盆栽師が関東大震災を契機に適地を求めここに移り住んだ。昭和三年には入村条件として、どの家も盆栽を十鉢以上育て、二階建てにせず、垣根は生垣、門戸を開放する等の定めがあった。今その掟はないが、駅から歩いて土呂町を抜け盆栽町に入ると雰囲気が一変し、優雅な盆栽村の趣を楽しめる。

盆栽村には七つの盆栽園と盆栽美術館がある。盆栽に造詣の深い愛好家は自由に盆栽園に出入りして観て回るが、初心者なので説明を依頼し、「盆栽は、見てきた山の風景、森や林や大樹を盆器の上に再現する」「盆栽をみる時は、しゃがんで下から見上げると、小さな木に大樹の姿を観ることが出来る」等の鑑賞方法を教わり、盆栽美術館で樹齢百年千年の盆栽を観察した。

「推定樹齢千年の蝦夷松<sup>えそまつ</sup>」は寒い気候で育つので葉は短い。長い歳月で太い幹は割れ、厳しい風雪に淘汰され生きぬいた如く枯れた白い木肌をむきだし、冬晴れの青空に向って枝を広げていた。

「推定樹齢一八〇年の野梅<sup>やばい</sup>」は梅の中でも原種に近い。樹齢は若くても老木の如く年取った木肌なので、古さを感じさせるのに重宝な梅だ。根元が太く枝は細かく、自然の風景を一本の木に美しく凝縮していた。

盆栽村を散策し住宅街の石畳の遊歩道を歩いて行くと、どの家も行き届いた庭で、紅梅やロウバイが咲き、竹林やガーデンアーチを造り、綺麗に剪定された枝ぶりの植木や生垣が目を引いた。見て歩くのは良いけれどここに住んだら手入れが大変だ。

盆栽はBONSAIとして海外でも人気が高い。毎年五月三日〜五日「大盆栽まつり」が盆栽町で開催される。全国から盆栽の素材、盆器、山野草の販売業者が集り所狭しと出店する。世界中から愛好家が集まり、閑静な住宅街が大勢の人出で賑やかに活気づくのが楽しみだ。